

2015年
(平成27年)

陶業時報

THE TOGYO JIHO

9月5日

土曜日

第1800号

陶業時報

若手デザイナーをプロデュース

東京青山・光箱市



日・韓・台の30組が出展

若手デザイナーのプロデュースを手掛ける「Experimental Creations」(以下EC)、上野侑美プロデューサーは8月1、2日、東京・ライトボックススタジオ青山で、展示即売会「光箱市(ひかりはこいち)」を開催した。

東アジアのクリエイターを発掘するブルースポットとの共催。日本、韓国、台湾の30組のデザイナー、ブランドが出展した。上野氏はTokyo Designers Weekの運営、デザイン事務所勤務などの経験を生かし、2013年に「ECの延長線」としてこのシリーズを作った。手仕事は工業製品と異なり、A品とB品の境界が工業製品よりあいまいで、さらに暖かみや味といったプラスになることがある。プロダクトデザイナーがそこにプラス面として関わりたかった」と福定氏。今回は新たに箸置きも加えた。

京都のデザイナー福定

このほか廣田硝子の切子の万華鏡、関谷理化の耐熱ガラスをデザインした東京・SOLstyle、古着のニットに泥のように染み込ませた花器(瀬戸、デザイン・工藤健太郎)、3Dプリンタ、ポリアミド、ラバーなどを使用した器など、手工業的な工程のプロダクトだけではなく、デジタルファブリケーションと加工技術の組み合わせから生まれた物なども見られた。

「ECの延長線」としてこのシリーズを作った。手仕事は工業製品と異なり、A品とB品の境界が工業製品よりあいまいで、さらに暖かみや味といったプラスになることがある。プロダクトデザイナーがそこにプラス面として関わりたかった」と福定氏。今回は新たに箸置きも加えた。

このほか廣田硝子の切子の万華鏡、関谷理化の耐熱ガラスをデザインした東京・SOLstyle、古着のニットに泥のように染み込ませた花器(瀬戸、デザイン・工藤健太郎)、3Dプリンタ、ポリアミド、ラバーなどを使用した器など、手工業的な工程のプロダクトだけではなく、デジタルファブリケーションと加工技術の組み合わせから生まれた物なども見られた。

このほか廣田硝子の切子の万華鏡、関谷理化の耐熱ガラスをデザインした東京・SOLstyle、古着のニットに泥のように染み込ませた花器(瀬戸、デザイン・工藤健太郎)、3Dプリンタ、ポリアミド、ラバーなどを使用した器など、手工業的な工程のプロダクトだけではなく、デジタルファブリケーションと加工技術の組み合わせから生まれた物なども見られた。